

令和7年度 学校だより

令和7年11月28日



にしはら

12月号

渋谷区立西原小学校

祈りの詩(うた)



副校長 中町 千恵子

11月1日に区民パレード、地域パレードを開催しました。鼓笛隊のリズミカルで力強い演奏と、堂々とした児童たちの姿に胸が熱くなりました。この日を迎えるにあたり、保護者や地域の皆様には、衣装の準備、取材、警備、代々木警察との交渉など多大なご支援をいただきました。また、西原町会や六号通り商店会・西原商店会の皆様からも温かいお心遣いやご声援をいただきました。本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。そして2週間後の15日には、

6年生の最後の鼓笛の舞台となる「移杖式」を行いました。校庭いっぱいにドリルを組んで見事な演奏を披露しました。一人一人の奏てる音色はそれぞれ違いますが、その音が一つに重なった時に、心を打つ最高の音色として美しく響き渡りました。そんな感動的な場面の中で一つの詩が思い浮かびました。



「わたしと小鳥と鈴と」金子みすゞさんの有名な詩です。



「私が両手を広げても、 お空はちっとも飛べないが、 飛べる小鳥は私のように、地面(じべた)を速くは走れない。 私が体をゆすっても、 美しい音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のように、 たくさんな唄は知らないよ。 鈴と 小鳥と それから私、みんなちがって みんないい。」 【出典:「金子みすゞ童話集 わたしと 小鳥と すずと」著者 金子みすゞ 選者 矢崎節夫】



金子みすゞ記念館の館長でもある童謡詩人の矢崎節夫さんは、この詩について次のように語っています。「『みんなちがって、みんないい』なんとうれしい言葉だろう。『あなたはあなたでいい。』と、うたっているのだ。人間を含めて地球上の全ては、違うから生まれることができ、違うからそれが存在することができたのだ。『誰もが生まれただけで百点満点』ということだ。」と。

金子みすゞさんの詩は、「祈りの詩」とも言われています。私も祈ります。
西原小学校の子ども達が、楽しくたくましく未来を輝かせてくれることを。



12月12日～13日に展覧会を開催します。子ども達はこれまで一生懸命に作品作りをしてきました。一人一人の思いがつまつた「世界で一つだけの作品」をぜひご鑑賞ください。

13日には造形活動「西原みんなのファッションショー」も開催いたします。縦割り班のみんなで力を合わせて作り上げてきました。温かく見守っていただけますと幸いです。



12月の目標

【生活目標】

みんなで使う物を大切にしよう。

【保健目標】

寒さに負けない体をつくろう。

【給食・食生活】

残さず食べて寒さに負けない体をつくろう。